

2009年西日本F4シリーズ第4戦

吉田広樹
〈鈴鹿サーキット〉

8月20日 フリー走行 DRY 鈴鹿サーキット

今回のレースはS-GT「Pokka GT」の前座レースとして行われ、レース関係者の方たちの前で自分をアピールする数少ないレースのひとつでした。過去2レースでは思うような結果を残せなかったのが、今回こそは「何が何でも結果に繋げる」という強い気持ちで挑みました。

この日の走行はF4のレースが久しぶりだったこともあり、感覚を取り戻すように周回を重ねます。前回の鈴鹿のレースから比べると気温や路面温度などまったく違う為マシンバランスも違い、少しずつセッティングを変更して行きました。この日はセッションごとに順位の入替わりも激しく、自分のポジションがハッキリつかめません。そんな中、大幅なセット変更を行う為走行を早く切り上げ、コースサイドから他車の走りを観察します。自分とラインが違うのはなぜか？走り方なのか？それともマシンのセッティングの差からくるものなのか？色々な要素がある中、それをヒントに更に自分のマシンへのセッティング変更の参考にします。

8月21日 フリー走行 DRY

この日は前日大幅に変更したマシンの動きを確認するため、積極的に周回を重ねます。その結果ある程度マシンのバランスが決まったところで、明日の予選を想定したNEWタイヤでのアタックを行いました。タイムは2'06、17と週末を通して自己ベストは更新したものの、トップからは0、5秒ほど遅れた3番手でした。やはりNEWタイヤを使用するとマシンバラ



ンスは大きく変わります。それを見越してセットを煮詰めていきたいのですが、F4のタイヤの特徴としてグリップダウンも大きく、本来であればNEWタイヤを使用しセットアップを行いたいのですが、予算の都合上中古タイヤでのセットアップを余儀なくされます。そのことから「いかにNEWタイヤのグリップが残る短い時間でセットアップを行えるか。」また「NEWタイヤのグリップを想像してセットアップを行えるか。」など凄く難しいのですが、今後ステップアップするのに必要な能力を培いながら、全てのフリー走行を終え翌日の予選を迎えることとなりました。

8月22日 公式予選 DRY 予選1位

朝から強い陽射しが照りつける中、公式予選を迎えます。この日の予選は20分間で行われたのですが、前日の夜中に雨が降ったこともあり、路面に浮いてきた埃やゴミなどのことも考慮し先ずはピットで様子を伺います。予選開始と共にコースインするマシンがいる中、5分ほど待機した後、満を持してコースイン。アウトラップからしっかりとタイヤを温め計測1周目からアタックを開始。そして続けてアタックを行った計測2周目、2'05,236というタイムで一気にトップに躍り出ます。しかし、その時自分のマシンのメータが故障していたこともあり、自分のベストタイムがわかりません。順位が入替わりすることも考え続けてアタックを行ったのですが、タイムアップの見込みもなかったため残り5分の時点でピットイン。予選を追え、他車のアタック結果を待ちます。その後、予選時間

Team Naoki
with

Laprod
LAPROD RACING

<NO.1>

2009年西日本F4シリーズ第4戦

吉田 広樹
〈鈴鹿サーキット〉

終了まで自分のタイムを更新するマシンはおらず、F4参戦3レース目で念願のポールポジションを獲得することが出来ました。しかし予選を振り返ると、計測2周目でベストタイムを出した後も続けて2周アタックを行ったのですが、次の日のレースのことやこのタイヤ特性を考えると、タイヤの限界を感じ取り出来るだけ短い周回で切り上げ、タイヤを温存するべきでした。私は熱くなるとこのような冷静な判断が出来なくなるので、そこらへんが今後の課題だと実感しました。

8月23日 決勝 DRY 優勝

この日は朝から気温・路面温度共に上昇し、予選日よりも過酷な状況の中決勝レースの時間を迎えることとなりました。前日の予選終了後チーム監督や服部さんと相談した結果、タイヤの状況なども考慮し決勝レースに向けセッティングを変更します。今回はポールポジションからスタートすることもあり、グリッドにつく周やフォーメーションラップもタイヤを温めることだけに集中してスタートの時を待ちます。

そしてフォーメーションラップも終わり、シグナルに集中。
シグナル・レッド、消灯、スタート！

タイミングもバッチリでトップで1コーナーへ。そのまま後続を引き離すべくプッシュを続けますが2周を終えた時点で2位との差もあまり広げることが出来ませんでした。そこから先は事前の作戦通り引き離すことよりも、ミスを犯さず、レース後半に備えタイヤを温存する走りに徹します。後続では激しい

2位争いが繰り広げられていたのですが、焦らず自分の走りに集中します。けれど7周を過ぎた時点で2位を走行中のマシンがペースをあげ、バックストレートではスリップを使われ並ばれてしまいます。残り周回数やマシンの状況を考えると「ここは何が何でも引くわけには行かない」と思い、2台並んだまま130Rへ。その結果相手はコースに留まることが出来ず、どうにかポジションをキープすることに成功します。その後は温存してきたタイヤを使い、後続を引き離すべくプッシュします。そして後続に2秒弱の差をつけ、F4参戦3レース目にて念願のトップチェッカーを受けることが出来ました。

今回フォーミュラのレースでは久しぶりの優勝でしたし、服部さんやチームの皆さんの前で結果を残せたことを凄くうれしく思います。今週末は本気で勝つことしか考えなかったもので、チームに対しても凄くわがままを言わせて頂いたり、自分のやりたいようにやらせて頂きました。この結果を残すまでに時間もかかりましたが、チームの方はもちろん服部さんや沢山のスポンサー様に応援し続けて頂いた事に本当に感謝しています。そして今回のレースを終えシリーズランキングも2位へと浮上しました。ただし予選・決勝を含めて課題も沢山あるので、そこをしっかりと克服しシリーズを通して絶対にチャンピオンを取りたいと思います。それでは今後とも変わらぬご指導、ご支援宜しくお願い致します。

TeamNAOKI with LE PRIX SPORT
吉田 広樹



Team Naoki
with
Le Prix Sport

〈NO.2〉